

平成27年度第3回 していますかチーム会議（H27.10.20）
報告

これまで検討されてきている、周知（相談窓口）、相談窓口チラシ作成、障害福祉サービス等の詳細情報提供、市民との意見交換会の開催等について、引き続き検討を行いました。

1. 「周知(相談窓口)」

●相談窓口周知を図るために必要な取り組みの分析・検討

○障害福祉計画アンケート結果よりの分析

相談経路：

障害分野支援に繋がる前に、サービスや病院等に間接的に繋がっているため、それら間接的機関と相談支援がより繋がる事が出来れば、相談支援に繋がりがやすくなると考えられる。これら間接的機関の中で重点的に周知すべき機関を把握するために、相談経路の調査を行っていく。

○相談経路の調査

方法： 支援区分認定調査員の調査項目や、計画相談のアセスメント項目に、上記相談経路等の項目を入れて頂き協力頂くことが出来るかを確認していく。

対象者・スケジュール： ・対象者：障害福祉サービス利用者とする

・スケジュール：年1回受給者証更新時等に調査をして、1年間で全員。

調査項目： ・現在（サービスはどこから繋がったか 等）

・過去（何歳の時に繋がったか、相談は継続出来ていたか or 途切れていたか） 等

⇒縦（ライフステージごとの課題）と横（現在の関係機関の連携の課題）の課題抽出を図る。

●相談窓口チラシ作成

各地域相談支援センターがすべて掲載されているチラシの作成について、必要な記載項目・内容を検討。

内容： 視覚的に分かり易く、細かい事は書かず、名称、電話番号、相談内容の例示、迷ったら電話等シンプルにしていく。

各地域相談支援センターの担当地域： 地図（担当センターごとに色分け+町名 50音（町名から検索）

配布・保管方法： ・増刷と配布をする方法を検討していく（伊勢市広報の利用等）。

2. 啓発（障害福祉サービス事業所等の情報提供）

障害福祉サービス事業所等の詳細情報の提供を行っていくために、他市のものを参考に詳細を検討。

媒体： まずは紙ベースとし、ホームページでダウンロード可能等としていきたい。

掲載内容（書式）： 基本情報、外観、PR、営業時間、主たる障がい種別、定員、昼食の有無、等々。

対象者： 利用者向けとし、まずは見学に行こうという動機付になるような情報提供を趣旨とする。

視覚的表現： 写真等で目で見てイメージが掴めるようにする。

管理： 定期的な管理が必要である（事業所の入れ替え、内容の微調整、不適切な場合の対応 等）

3. 市民との意見交換

災害時の支援について講演等を行う中で、障がいのある方への支援についての情報・意見交換会を行う。

テーマ： 「障がいのある方の災害時の支援について（仮）」

災害時に必要な支援、災害時に備える取組み、障がい特性の理解の必要性、伊勢市災害時要援護者登録制度の理解・改善等へ向けて（登録者の情報開示のあり方（近所に情報を出すか or 助けを期待しないか 等を迫るものにならないように等）

対象者： 市民、当事者、家族、民生委員（各地区で人数限定し、各地区に持ち帰ってもらう）等々。

開催時期： 2月頃予定